

『虞美人草』十九句 二〇・三・十一・十二日傘 順子

第一章 叡山の霞たなびく春を往く

第二章 匂い立つ紫の君想う春

第三章 行く末を憂う琴の音春の雨
うれ ね

第四章 春暁の窓辺に揺らぐ影ひとつ
しゅんぎょう

第五章 松風の桜彩る嵐山
あらしやま

第六章 霞立つ五重塔に春嵐
はるあらし

第七章 夢を待つ日輪に吹く東風
にちりん ひがしかぜ

第八章 夕暮れの浅葱桜の茶の湯かな
あさぎざくら

第九章 春寒の夜に偲ばるる古都の夢
はるぎむ よ

第十章

すれ違ふ花の香りか想い人

おも びと

第十一章

博覧の光り煌めく春の夜

第十二章

春雷の怒り鎮める針の雨

第十三章

愛嬌に風も凧たる董かな

第十四章

半空に夢をとどめし春の月

はんくう

第十五章

相容れぬ母子に扇骨木芽吹く春

おやこ かなめ

第十六章

温情は二人静の花を知る

ふたりしずか

第十七章

青麦の風に乱れし恋の舞

第十八章

春を射る稲妻に散る石榴玉

ざくろだま

第十九章

春誇る命董くゆらす銀屏風